

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (東北)	◎	一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・県発行のクーポンを使う客が多い。
	◎	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援の効果で来客が途切れしない。
	○	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症関連の商品も通常の商品もよく動いている。来客数も増えてきている。
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・10月は売上が前年比96%、現在は98.6%と若干上昇している。値上げで単価が上がっており、客単価が前年比103.7%まで上がっている。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・夜間、休日の人の動きが良くなっている。客単価もアップしている。全国旅行支援のクーポン利用の影響もプラス要因になっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・行動制限がないため、3か月前と比べて人流は戻ってきている。立地によっては新型コロナウイルス感染症発生前と同様の来客数となっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・販売量が増加している。
	○	乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・車両生産が若干安定してきたため新車登録が進み、収支も改善し前年比130%程度となっている。しかし、依然として中古車の在庫不足は改善されていない。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・全国旅行支援により、新型コロナウイルス感染症を気にせず外出する人が増え、人が動いている。
	○	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・全国旅行支援に伴う来客数の増加が続いている。
	○	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第8波の影響が出てきたが、全国旅行支援のおかげで客は多い。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・全国旅行支援により国内旅行取扱額も増加しており、3か月前と比べて上向き傾向にある。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・全国旅行支援の効果もあり、国内の旅行需要に対して販売量が増えている。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・全国旅行支援の効果により第3四半期の販売は2019年並みまで回復している。ただし、県ごとの財源に格差があり、その効果は一律ではない。
	○	観光名所（職員）	販売量の動き	・旅行業者の募集団体や一般の会社関係の団体等が非常に増えている。これにクーポンが加わり、土産物を買わなければいけないという雰囲気があり、販売量が大変増えている。
	○	遊園地（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況も客足にはそれほど影響せず、3年ぶりのイベントを実施できた。気温が比較的温暖に推移したこともあり、来客数は学校団体の来場予定が後ろにずれたことで多くなった前年を少し上回っている。
	○	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・戸建て住宅の受注の伸びは落ちているが、大型倉庫物件等の受注が伸びている。
	□	一般小売店〔書籍〕（経営者）	販売量の動き	・取り扱っている商品は再販商品のため販売価格が決まっており、コストの上昇分を販売価格に転嫁できないため、非常に厳しい状況が続いている。加えて、ベストセラーの類が前年の後半から全く出でおらず、業界全体が不振の真ただ中にある。
	□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・11月はサッカーワールドカップが始まってからは、夕方から夜に掛け繁華街から人がすっかり消えて、人出が全くない状態が続いている。
□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・全国旅行支援のクーポン等の影響で旅館や観光施設等への販売量は上昇傾向にあるが、飲食店への販売量はほぼ横ばいである。特に週末は家で過ごすことが常態化しており、ファミリーレストラン等の形態はにぎわいを見せているが、酒類を提供する飲食店に関しては依然として苦しいままである。	
□	一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・依然として厳しい状況が続いている。新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきて、ますます動きが鈍くなっている。	

□	百貨店（計画担当）	来客数の動き	・来客数は前月から横ばいとなっている。
□	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数に回復の兆しがみられない状況である。
□	スーパー（営業担当）	販売量の動き	・3か月前から来客数の前年割れが続いている。値上げの影響で特売商品を出しにくい。価格を下げてでも集客は弱い。
□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響で人の動きが余り良くない。
□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染者が出てから2年以上が過ぎ、各企業にも影響が出始めている。個人の収入も減少しつつあるとみられ、買い控えが出ているため、売上は前年より落ち込んでいる。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・タイヤ交換時期に新型車発表も重なり、例年と比べて来客数は増加しているが、受注台数は例年どおりの推移である。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数は増えてきており、受注もそれなりにあるが、納期が不安定である。登録にならないと収益にならない。
□	自動車備品販売店（経営者）	お客様の様子	・修理等の在庫数は多くない。1台当たりのコストも客からはなるべく抑えるようにいわれている。
□	その他専門店 [白衣・ユニフォーム]（経営者）	販売量の動き	・各メーカーとも今秋から値上げが続いており、値上げ前に客から前倒しで受注したものもあるが全体的に購買力は下がっている。また、人員削減の影響なのか注文数も減っている。前年と比べても数量的に減っている状況である。
□	その他専門店 [靴]（従業員）	販売量の動き	・地域のプレミアム付商品券の効果も落ち着き、各種値上げの影響なのか、冬物商材の動きは鈍い。
□	その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	お客様の様子	・全国旅行支援もあり、人の流れはかなりできているものの、物価高や新型コロナウイルス感染症の影響で、客の購買意欲は余り伸びていない。
□	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援などもあり、観光で訪れた客が多少増えている。しかし、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えていることから、これまで来てくれていた近隣客の出足が鈍く、余りぱっとしない状況が続いている。
□	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響が大きい。11月頃からは鍋のシーズンや忘年会も始まるが、何回かキャンセルがあった。団体のうち1人が感染すると皆出られないという状況である。
□	タクシー運転手	競争相手の様子	・地域内では競合他社の廃業も多くなっているため、客は多くないが、前月同様、稼働していれば売上は立つ状況である。
□	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化がみられない。
□	競艇場（職員）	来客数の動き	・今月は利用者が少なく売上も良くない。1人当たりの単価も上がらず厳しい月となっている。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ数か月、再来店客数は前年比87～89%で戻り率がほとんど変わっていない。前年も新型コロナウイルス等の影響で減っていたがそれよりも更に減っている。また、新規客は前年比60%である。新型コロナウイルス感染症の影響や景気が悪いことにより、来店を控えているようである。
□	その他サービス [自動車整備業]（経営者）	販売量の動き	・原油や半導体、鉄製品の品不足や値段の高騰に加えて、円安により輸入材料の値上げが止まらない。販売価格を上げているものの、価格差は吸収し切れず、売上が減ってきている。
□	その他住宅 [リフォーム]（従業員）	販売量の動き	・住宅設備機器は、ガス給湯器、ビルトインコンロ、エアコンを交換する工事が増えている。リフォームは、資材入荷待ちが改善し、塗装工事や室内の増改築工事が増えている。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・光熱費や食料品等の値上がりにより、消費者の財布のひもはより一層固くなっている。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・値上げが多く、買い控えがみられる。

▲	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・売上は11月の平年売上と変わらないが、3か月前と比べるとやや悪くなっている。常連客は来店の間隔が長くなっており、取引先と話をしているも景況感は良くなく、景況が悪化している実感がある。コロナ禍の長期化でストレスや運動不足が重なり、体調悪化を訴える客が増えており、売上はその需要に支えられている。
▲	百貨店（経営者）	お客様の様子	・11月に入り好調に推移していた高額商品や衣料品の動きも鈍くなっている。店頭でも、どちらかといえば旅行などのコト消費を重視するという声が聞かれ、耐久消費財の購入を迷う客もみられるようになっている。
▲	百貨店（売場担当）	来客数の動き	・売出し期間中は盛り上がりを見せたが、前後の来客数の落ち込みが大きい。特に月後半は急激に減少している。新型コロナウイルスの新規感染者数の増加、物価高による生活防衛、早期セール待ち等、要因は複数考えられる。
▲	百貨店（催事担当）	来客数の動き	・県内の新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増え、来客数が減少している。また、インフレの進行により生活防衛意識が強まっており、必要最小限の買物に抑えている客が多くなっている。
▲	スーパー（経営者）	単価の動き	・11月は平均1品単価が前月同様に4%を超えている。来客数の前年割れも前月同様である。買上点数の減少は前年比6%強と前月から拡大し、買い控え傾向が広がっていることがみて取れる。消費動向は引き続き良くない状況が続いている。
▲	スーパー（営業担当）	お客様の様子	・値上げの影響が出て、必要最小限の消費になっている。買上点数が伸びず単価が高くなっていることから、まとめ買いをしたり、必要な物以外の購入を抑えたりしているとみている。また、気温も高いため冬物食材などが伸びてこない。ブラックフライデーも例年より盛り上がり欠けている。
▲	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・かなり物価が上がっているため、客も目的買いが多く、衝動買いがかなり減っている。かなり厳しくなっているのは間違いない。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・県内の新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最高を更新しており、夕夜間の来客数が減少している。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加とともに来客数の減少が顕著になっており、単価でカバーしている状況が続いている。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・10月の来客数動向を見ても、上旬は観光キャンペーン等もあり観光地の立地店舗を中心に人の動きも多くみられたが、それ以降は新型コロナウイルスの新規感染者数が増えるに従って来客数が落ちている。新型コロナウイルスの新規感染者数がピークのときの数値と同程度まで落ち込んでいる。
▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・コンビニ各社は値上げ分で単価が上がっているが、来客数は若干減少している。そこが懸念材料で、買えない人が増えてきたようである。サラリーマン男性の財布のひもが固くなっている印象を受ける。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・買い控えなのか、欲しい気持ちがあってもセーブしているようである。生活に直結したいろいろな物の値上がりの報道が多く、買い控えることが正しいことと思っているのかもしれない。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価高騰が進むなか、購買意欲が高まらない人が多く見受けられる。
▲	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前年はブラックフライデー前後から景気が良くなった。そこから一巡し、前年と比べると来客数が増えなくなってきた。新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきたことも原因とみている。
▲	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・円安による物価高、新型コロナウイルスの感染拡大と負の要素が重なっているせいか、復帰の兆しをみせた葬祭、ビジネス、出張用途での需要が減少している。ふだん着においても高単価商品の動きが鈍くなっている。
▲	衣料品専門店（店長）	単価の動き	・物価上昇に伴い、必要最低限のものしか購入しないという客が増加傾向にある。

▲	衣料品専門店 (総務担当)	来客数の動き	・物価上昇の影響を受けて来客数が減少傾向にある。し好品的要素の強い商品群で客単価、買上点数に影響が出ている。
▲	家電量販店(店長)	販売量の動き	・新築需要などは少ない。暖冬気味の状況なので、エアコンや石油暖房関係の季節商材の売上が振るわない。テレビなどのAV商品は前年並みだが、冷蔵庫や洗濯機といった白物家電は前年比90%前後である。来客数も前年比95%程度で、客単価はやや上がっているが、売上は前年を割っている。客は全国旅行支援には興味があるようだが、家電製品の購入意欲は余りないようである。
▲	家電量販店(従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない状況のなかで、来客数が明らかに減ってきている。
▲	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・販売停止中の車は何車種か出てきており、個人客に販売することのできる車が少なくなっている。
▲	住関連専門店(経営者)	販売量の動き	・3か月前はお盆やお彼岸の仏事小物を多く販売しており、ある程度の売上は保たれていた。しかし、今月は小物販売も落ち込み、売上はやや低下している。
▲	その他専門店 [酒](経営者)	販売量の動き	・今月に入り、各社の値上げが一般市場に反映されつつある。全体的な動きが鈍化しており、芳しくない傾向にある。また、飲食店も同様に新型コロナウイルス感染症の影響が大きくなっている。非常に苦しい状況が続いている。
▲	その他専門店 [ガソリンスタンド](営業担当)	販売量の動き	・一時は前年を超える環境にあったものの、依然として年々販売量が低下している。個人消費は伸びているが、法人関係の動きが悪く、全体的に販売は減少している。
▲	高級レストラン(経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第8波が来ていることに加え、仕入価格、その他資材が値上がりしている。
▲	一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・今月前半の滑り出しはとてよく、景気が良くなってきたと思ったが、中旬から後半にかけて新型コロナウイルスの新規感染者数が増えたためキャンセルが相次ぎ、景気は減退した感じになっている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・8月は、例年はお盆の帰省など人の移動があり収益が落ち込む月だが、今年は様々なイベントが開催されたことにより、市内イベント会場への移動による利用者が大幅に増加した。また、3月の大きな地震の影響で、観光スポット循環バスの経路変更に伴うタクシー利用者が増大したため、収益は新型コロナウイルス感染症発生前の水準まで上がった。そういったことがあった3か月前との比較ではやや悪くなっている。
▲	通信会社(経営者)	お客様の様子	・年末に向けて、映像サービスとインターネットの両サービスの新規加入者が一気に減少している。身の回りの物価高にも影響されているのか、加入するメニューのほとんどが格安コースに限定されている。
▲	通信会社(営業担当)	お客様の様子	・11月に入り、スーパーマーケット等小売業の店頭販売価格が高騰しているのが目に付くなど、物価の上昇を実感するようになっている。また、新型コロナウイルス感染症が拡大していることから、自主的に行動制限をしている人も多く、景気がやや悪くなっている。
▲	通信会社(営業担当)	単価の動き	・各種物資の値上げの影響がじわじわ出てきている。消費者においても、生活の収支バランスが崩れてきており、家計を圧迫している。
▲	通信会社(営業担当)	お客様の様子	・物価上昇のため経費削減要求が強くなってきている。
▲	美容室(経営者)	お客様の様子	・何もかも値上げの現状で、客も支出を控えているようである。
▲	設計事務所(経営者)	競争相手の様子	・建築資材の高騰や供給遅延に伴い、建設費の増加が顕著に表れており、着工や計画の見直しを進める事例が増えてきている。
▲	その他住宅[住宅展示場運営会社](従業員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に加え、気温が下がっていることから、来場組数は前々月比83%、前月比82%と減少傾向にある。
×	スーパー(経営者)	お客様の様子	・商品の値上げが止まらず、客の財布のひもが固くなっている。限られた予算のなかで買うために買上点数が落ちている。

	×	コンビニ（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の影響による人手不足、物価の上昇による買い控え、最低賃金の引上げ、とどめに電気代の大幅値上げがあり、冬を前に赤字になっている。20年経験しているが、どんな取組をしても、経費を減らしたとしても、もはや経営は無理である。どうにもならない。
	×	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・当地では新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしており、繁華街には地元の人も観光客も来ておらず、特に平日の夜は静かである。また、物価の上昇が止まらないため、景気は悪くなっている。
企業 動向 関連  (東北)	◎	食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・バブル期のような忙しきで売上も回復しているが、生産体制や販売体制が追い付いていない。スタッフの増員にも苦慮している。
	○	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国旅行支援があるなかで土産需要は前月に引き続き好調である。一方で、お歳暮商戦がスタートしたが、物価上昇があるためか動きは良くない。12月の動きが心配である。
	○	金融業（広報担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波のときと比べ、地域においてもウィズコロナの経済活動に慣れてきたと考えられる。具体的には、新型コロナウイルス感染症の第8波が疑われるなかにあっても、観光・宿泊業の入込客数は維持されているほか、住宅・自動車関連の需要も増加している。
	○	公認会計士	取引先の様子	・客の月次、決算状況から判断している。小売、サービス、飲食関係は売上回復傾向にあり、利益等も前年比で増加している。一方、製造業関係は一部IC部品等の部材不足で生産ができず、売上が減少している。全体で見れば、建設関係の好調もあり景気が良くなっている。
	○	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・来年以降に値上げする商品に対する買換え商談が増えてきている。ただし、商品の在庫が潤沢ではなく需要に対し供給が追い付いていない状況である。
	○	その他非製造業 [飲食料品卸売業]（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・商品の値上げが続いているが、思ったよりも影響は少ない。目玉商品が多く入荷したため、販売量が前年を上回っている。
	□	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・相変わらず販売量の前年割れが続いている。首都圏向けの売上は好調だが、東北地区の落ち込みがそれを上回っている。
	□	金属製品製造業（経営者）	それ以外	・受注は好調だが、一方で光熱費を始めとした原価が上昇している。特に光熱費の値上がりが見られ、収益が大幅に低下している。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・新規案件の話は少ないがリピート品等の注文は継続している。電機部品はいまだに入手が困難で、装置などが組立てられない状況にある。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年11月は雨が多く工事の進捗が鈍るが、今年は日中雨が少なく工事の進捗が順調である。ただし、材料費の値上げが懸念材料である。
	□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・最近若干ではあるが、業種によっては景気に明るい兆しがみえてきている。しかし、当社の主要製造業取引先の場合は、新型コロナウイルスの感染拡大による売上の減少や、ウクライナ情勢の影響による原材料の価格高騰等により業績が良くない。このような状況では景気が良くなってきたとはいえない。
	□	通信業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響で客の反応は消極的傾向になっている。
□	広告業協会（役員）	受注量や販売量の動き	・秋の行楽シーズンで人の流れが活発になっており、旅行関連、飲食店、宿泊施設等の広告出稿が増えている。新型コロナウイルスの感染が徐々に拡大しているが、年末年始商戦に向けた広告出稿に関しては、余り影響は受けていない。	
□	経営コンサルタント	それ以外	・秋の行楽シーズンに合わせて、全国旅行支援等は奏功している面もみられるものの、新型コロナウイルス感染症の第8波の懸念がプレーキとなり盛り上がり欠けている。	

	□	その他非製造業 〔食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が消費行動にネガティブに働いている。
	□	その他企業〔企画業〕（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加がいわれているが、当地の宿泊施設における県外からの来客数に目立った減少はない。
	▲	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・お歳暮用のりんごの注文数は例年どおりだが、例年よりも少ない量の注文、あるいは販売単価の安いものに切り替えて注文する人が多くなっている。
	▲	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、広告出稿の意欲がなくなっている。
	▲	窯業・土石製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・地域間格差はあるものの、東北全体の出荷は前年比2けたのマイナスが長く続いている。需要の低迷に加え諸資材の高騰が経営を圧迫している。需要回復の兆しはみえない。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・見積案件数が若干減少傾向にある。
	▲	電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・エネルギー業界においては、ウクライナ情勢の影響で各発電所の燃料費が高騰していることから、修繕費削減傾向が強くなっている。
	▲	電気機械器具製造業（企画担当）	取引先の様子	・客の半導体関連設備の投資に対する意欲が減退している。半導体製品は以前から高い需要があったが、半導体を扱う最終製品の伸びに対して、メモリ等汎用的な半導体の供給がややオーバー気味になっている可能性もあるとみている。
	▲	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・前月同様、受注量が減少し、売上は減少傾向にある。やや悪化傾向にある。
	▲	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・まとまった額の受注契約がなかった。
	×	農林水産業（従業者）	それ以外	・天候不順の影響により、米やその他の作物が不作となっている。
雇用 関連 (東北)	◎	*	*	*
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は継続的に増加傾向にある。これは東北地域全体で共通する動きである。特に11月は、上期が終了し下期の事業成長に向けた募集が増えてきている。
	○	新聞社〔求人広告〕（経営者）	周辺企業の様子	・行動制限の緩和をきっかけに、イベントの実施や開催についての問合せが急増している。しかしながら、求人数の増加に対して、計画どおり採用できない企業が多いことに多少の不安がある。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は3か月前よりも増加している。前年同月比では17か月連続で増加しており、雇用情勢については改善が進んでいるといえる。
	□	人材派遣会社（経営者）	周辺企業の様子	・採用活動を継続しているものの、ここに来て人材がひっ迫している。製造業あるいは倉庫業で派遣社員を使った採用が増えていることが大きい。
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・現状は変わらないが、新型コロナウイルスの新規感染者数がまた増えてきた。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は季節的なオーダーは増加しているが、おおむね前年と同様の状況である。
	□	新聞社〔求人広告〕（経営者）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス感染症の第8波とウクライナ情勢等による円安の影響が地方経済に重くのし掛かっている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあるが、経済社会活動への影響は限られており、前年と比べて、宿泊業、飲食サービス業、卸売業、小売業において求人数が伸びている。
	□	学校〔専門学校〕	周辺企業の様子	・制限を伴う新型コロナウイルス感染症対策が講じられていないため、各業種で従来の形に近づいた営業が実施できつつある。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・売上が2か月連続で前年の実績を下回っている。
	▲	その他雇用の動向を把握できる者	周辺企業の様子	・求人数は多いものの、人手不足の業種でも燃料価格の高騰や物価高の今後の影響を不安視する声がある。

	×	アウトソーシング企業（経営者）	それ以外	・何もかもが値上がりしているため、利益が落ちている。
--	---	-----------------	------	----------------------------